



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2015/05/28((木))

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 168

東日本大震災復興支援

第46回全国ミニバスケットボール大会 観戦記

指導者育成専門委員
杉本 浩

1. 始めに

今大会も震災復興支援ということがあって、開会式では東北ブロックの各県会長さん方が多く参列し、選手達も「支援に感謝します」などの新しい横断幕を掲げて入場していた。

2. 予選リーグ・女子 一試合目 3月28日(土) 10:30～ 代々木第一体育館 Aコート

(札幌) 前田中央ミニバスケットボール少年団 VS (佐賀県) ^{ながまつ}長松クイーンズ

1Q 前田中央は道大会と同じメンバーでスタート。#13が積極的に攻め、その後#5、#12がエンドからの攻めや速攻で得点を重ねる。長松に160cm台はいないが、#10のゴール下での活躍や、#5の連続得点で同点に終わる。(11-11)

2Q 出だしは前田中央の#10や#7のゴールで点数を伸ばすが、後半はプレスをかけられ、ペイントエリアに入れず。逆に、長松の各選手に満遍なく点を入れられた。(4-14) **前半(15-25)**

3Q 前田中央は2Qの差を縮めるべく各選手が多彩な攻撃で得点するが、長松も#5や#8がゴール下で得点を重ね、差を詰められない。(10-11)

4Q 長松の#8が連続ゴールを決めるが、前田中央も#4や#8のナイスプレーが続き互角に戦う。その後、前田中央の#8や#5がペイントエリア内で得点するが、逆速攻されるなどして同点で終了した。(8-8) **後半(18-19) トータル 33-44**

※ 二又道ミニ連副理事長提供のデータです。参照ください。 大会1日目のみ ペイントエリア進入率

	前田中央のオフェンスのパターンと回数	得点	回数	進入率
1Q	○△○△△○△○△△○△△△	11	5/14	35.7%
2Q	△○△○○△△△○△△△△△	4	4/14	28.6%
3Q	△○△○△△△△○△○△△△○○△○△△△○	10	8/21	38.1%
4Q	○△△○△○○○○○△○○○○○	8	12/16	75.0%
		33	29/65	44.6%

*記号の見方 ・ペイントエリアに進入した → ○印…得点あり(フィールドのみ), ○印…得点なし
・ペイントエリアに進入せず → △印…得点あり(フィールドのみ), △印…得点なし

3. 予選リーグ・女子 二試合目 3月28日（土）14:50～ 代々木第一体育館 Cコート

（札幌）前田中央ミニバスケットボール少年団 VS （新潟県）^{かみかわにし}上川西ミニバスクラブ

1Q 前田中央は前の試合を引きずっているのか攻撃的なパスができず、守りではファールが続く。川上西は、#9や#4のフリースローやバスカンで得点を伸ばす。2分を切ってから、前田中央はようやくパスカットなどからの速攻で#4、#5が得点する。（4-12）

2Q 前田中央はシュートファールが続いて4点を先取され、逆にトラベリングを取られるなど、シュートまで持っていけない。残り2分ちかくなってタイムアウトを取るも、悪い流れを断ち切れず、相手#6にリバウンドシュートや外角からも決められ、無得点のまま前半を終了した。（0-12） **前半（4-24）**

3Q ベストメンバーになった前田中央は息を吹き返し、#4や#5が積極的にゴール下へ攻め込み、その後も#7が続く。#6はファールされながらもシュート決めて得点を伸ばす。一方、川上西のポイントをも#5、#6の6点に抑え、4Qに希望をつないだ。（10-6）

4Q 川上西は#7のシュートで先手を取り、ディフェンスもタイトにして前田中央に3Qのような攻撃を許さない。さらに前田中央は#4が右足を痛め交代。シュートファールも続き、フリースローを連続で決められて引き離される。前田中央は#10がゴール下でねじ込み、ようやく一矢を報いる。（2-12） **後半（12-18）** **トータル 16-42**

	前田中央のオフェンスのパターンと回数	得点	回数	進率
1Q	△△△△△△△○○○△△△△○	4	4/15	26.7%
2Q	△△△△△△△△△△△△△△	0	3/13	23.1%
3Q	△○△△△△△△△△△△△△△	10	7/15	46.7%
4Q	○○△△△△△△△△△△△△△△△△	2	5/21	23.8%
		16	19/64	29.7%

～ コメント ～

大会1日目に2試合があり、実力を発揮できないまま2敗してしまいました。悔しい思いを残して会場を去らざるを得なかった選手や関係者の皆さんの思いは、察するに余りあります。全国大会という独特な雰囲気の中で、普段練習してきたことを出し切ることの難しさは、これまでも多くのチームが経験していることです。実際、この大会の最終日の決勝戦でさえ、第4Qが0点というゲームがありました。二試合を終えた後、コーチが「選手が、ゲーム中にボイスを出せなかった」と悔やんでいました。道大会の決勝戦のように、自分たちのペースで試合展開ができなかったことは、本当に残念なことでした。

4月下旬、前田中央の関係者が、全国大会出場を応援してくれた地域の人々に感謝の気持ちを伝えたいとして、地域でごみ拾いのボランティア活動をしているとのニュースを知りました。全国大会の敗戦後、こうした活動に取り組んでいることに感動しました。全国を経験した新6年生を中心に、新たな目標を持って活動が始まっていることと思いますし、中学生になった団員もバスケットを続け、頑張ってもらいたいと思います。（詳しくは手稲区HP参照）

4. 予選リーグ・男子 一試合目 3月28日(土) 13:45～ 代々木第体二育館 Fコート

(稚内) アルピナミニバス VS (東京都) 国立一 くにたちいち ジェイホークス JAYHAWKSスポーツ少年団

1Q どちらもマンツウでスタート。先取点を取られるも、すぐにアルピナの#14が外角から決め同点とする。その後、互いのフリースロー合戦や、アルピナの#6がローポストでしっかり決めるなど、1点差の攻防となる。1分切ってから相手#4に入れられ、1ゴール差とされるが、アルピナとしてはまずまずの出だし。(5-7)

2Q このQ、相手の得点は全て#5。ウィークサイドを突いたり、リバウンドシュートを決めたりとオールラウンドの活躍。アルピナは早めにタイムアウトを取るも、得点は#13と#4の2ゴール。終了間際、#9のゴール下のフック気味のシュート2本が惜しかった。(4-11) **前半(9-18)**

3Q 国立一は#5の活躍で10ポイントを稼ぎ、対するアルピナは#6と#9ツインタワーのコンビネーションプレーやブロックショットなどで対抗。#5もフリースローを決めて食い下がり、4Qに望みをつなぐ。(8-12)

4Q アルピナはタイトなディフェンスから追い上げを図るが、ファールが続きタイムアウト。その後、#5、#6による連続得点で点差を詰めるも、タイムアップとなる。(8-8) **後半(16-20) トータル 25-38**

	アルピナのオフェンスのパターンと回数	得点	回数	進率
1Q	○△△△○△△△△△○△	5	5/13	38.5%
2Q	○△△△○△△△△○	4	4/11	36.4%
3Q	△○○△○○○○○○○	8	9/11	81.8%
4Q	△△○○△△○○△△○△	8	4/11	36.4%
		25	22/46	47.8%

5. 予選リーグ・男子 二試合目 3月29日(日) 11:40～ 代々木第一体育館 Aコート

(稚内) アルピナミニバス VS (富山県) 豊田 とよた ミニバスケットボールクラブ

1Q アルピナは#6の連続ゴールで幸先の良いスタートを切り、その後は#5の外角から2本のシュートを決め優位にゲームを進める。アルピナ#6と豊田#8による170cm台のリバウンド合戦に見応えがあった。(8-7)

2Q このQもアルピナの#10と#13が連続ゴールを決める。思うように得点が伸びない豊田はタイムアウトをとるが、アルピナはタイトなディフェンスを崩さず。残り1分台から得点が動き、2Qでさらに点差を開く。(8-6) **前半(16-13)**

3Q ハーフタイムに穏やかな表情のコーチから指示を受け、アルピナはベストメンバーで臨んだ。結果的にはセンター#6の独壇場で、ゴール下でのフックシュート、ターンシュート、豊田#8との1ON1、フリースローなどで全得点をたたき出した。(11-8)

4Q アルピナは立ち上がりからプレスをかけ、#6以外の選手がパスカットからの速攻やセカンドチャンスをしっかりものにするなど、そつのない攻撃で得点を重ねる。相手はたまたまタイムアウトを取る。コーチの「まだ勝ったわけでないぞ！」の指示のもと反撃を

6点に抑え、全国大会1勝を飾った。(14-6) 後半(25-14) トータル 41-27

～ コメント ～

第一試合の対戦相手であった国立一の#5は、関東地区でもスーパースター的なプレーヤーとのこと。これがもし二試合目のゲームであったならば、対策もとれたかも…と惜しまれる試合でした。結果的には、2Q以外は互角の戦いをしており、関東地区の日本ミニ連役員も、アルピナの戦いぶりを賞賛していたと聞きました。第二試合は常に先手を取り、各選手が自分の持ち味を十分発揮していました。その後の国立一と豊田のゲームは、#5のいない2Qは同点だったものの、最後はダブルスコア以上の大差で国立一が勝ち、アルピナの決勝トーナメント進出というわずかな望みは絶たれてしまいました。

道大会における予選リーグ突破はもちろん優勝も初めてのことで、地元稚内では大いに盛り上がっていたと聞いています。選手やコーチ陣、チーム関係者の努力が一番でしょうが、レバンガなどが合宿地としている環境や、地区協会あげての応援も見逃せません。

チーム数の少ない地区から全国大会出場チームが誕生したということは、似たような環境にある他地区への励みになり、そうでない地区にとっては発奮を促すよい機会となったものと考えます。手前味噌にはなりますが、昨年7月上旬に稚内で開催したU-12北海道ブロックエンデバー講習会も、一助になったのではないかと考えています。

6. 全国大会最終日

最終日の決勝トーナメントに残るチームは、やはりファンダメンタルがしっかり出ていました。ディフェンスやオフェンス共に鍛えられ、個々の良さを引き出しているベンチワークも垣間見ることができました。「視野を広く保ち、状況判断をよりの確なものにしていることが、速攻やよいシュートセレクションにつながっていること」、「様々な局面におけるボディーコントロールが巧みなこと」などが印象に残っています。

また、メンタル面でもタフであることです。男子のDブロック決勝戦は、東北ブロックの福島と宮城でした。1分切って3点ビハインドの宮城が4Qの残り1.6秒でファールをもらい、#5がフリースローを2本とも決め、1点差で逆転勝ちしました。こうした局面においても平常心で臨める選手でありたいものです。

さらに、「高さの脅威」も見せつけられました。前田中央を破り準決勝に勝ち上がった上川西の対戦相手が茨城県の岩井第一MBCでした。そのチームに172cmのセンターがおり、三人のディフェンスに囲まれていようが、味方はかなり遠くからでもポストにボールを入れます。男子ならまだしも、やはり女子の170cm台は脅威でした。まだ粗削りなどところはありますが、そのゲームではチームの8割以上の得点を稼いでいました。その後、ブロックの決勝まで勝ち上がりましたが、2Qの点差が響きブロック2位に終わりました。

女子の前田中央と佐賀県の長松を破り予選ブロックを抜け出した新潟県の上川西チームは、決勝トーナメントで上述の茨城県チームに8点差で負け、準決勝へは進めませんでした。

男子のアルピナと富山県の豊田を破り決勝トーナメントへ駒を進めた東京都の国立一も、福島県に1ゴール差で負け、準決勝へは進めませんでした。

7. 二又(道ミニ連副理事長)提供のデータについて

二又氏は大会1日目だけを見た後、全国大会と並行して道の新人大会が行われているため帰道しました。二又氏が私の近くでデータを記入していたのを見ており、興味があったので、後日送ってもらいました。掲載したデータは、1日目の北海道チームのものでした。

現在はいろいろなソフトが出回っており、ゲームの各種データを入力し、集計結果を見ることができ、活用されているようです。アナログではありますが、このデータからオフェンスの得点率や連続得点ができかなど、様々な流れが分かるということでした。紙面掲載の都合上、表をコンパクトにし、得点は北海道のチームのみを載せています。

8. 最後に 日本ミニ連の「東日本大震災復興支援」への取り組み



1) 横断幕への寄せ書き

左記の写真は、代々木第一体育館の入り口に展示されていた横断幕です。昨年度の各ブロック大会の最中、この横断幕（４５回大会の入場時に、岩手県ミニ連が使用したもので、他に福島県と宮城県のものがある）に、参加した選手達が励ましの意を込め寄せ書きをしました。北海道は単一ブロックで、夏季交歓大会がそのブロック大会

に当たるので、昨年の帯広大会において書き込んでもらい、次のブロックに送りました。北海道は全国で一番早くブロック大会を開催しているため、始めの方の場所が割り当てられています。左の上部に「北海道より」の文字が見えるかと思います。

2) 義援金

毎年、義援金の額が減ってきているのは事実ですが、平成２６年度までの累計は約１，３８１万円にもなっているとの発表がありました。